

インパクト
コンソーシアム

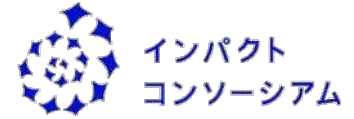
第2回 データ・指標分科会資料

(2024年11月14日 15:00-17:00 @Webex)

事務局

1. 開会
2. 事務局説明 【10分】
 - ◆ 第1回分科会アンケート結果
 - ◆ 第1回DM会振り返り
3. 年間計画・成果物イメージの確認 【15分】
4. IMMの現状・革新・課題 【各15分×3】
 - 4.1 海外におけるIMMの調査進捗報告
 - ◆ Nippon Life Global Investors Europe Plc 林様
 - 4.2 上場企業のIMM（インパクト測定・マネジメント）の現状・革新・課題
 - ◆ 第一三共株式会社 有馬様
 - ◆ 大和ハウス工業株式会社 関様
5. 意見交換 【45分】
6. 事務局連絡 【5分】
7. 閉会

第1回データ指標分科会アンケート調査結果（1/2）

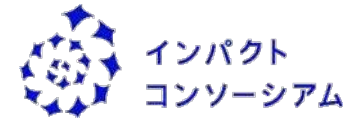


第1回分科会開催後に参加者対象にアンケートを実施し42件の回答を得た。アンケート結果概要は以下の通り。

項目	主な回答
第1回分科会の満足度	平均3.95（5段階中）
取り上げてほしいトピックス	<ul style="list-style-type: none"> • KPI設定・インパクト測定（13名） • 具体的な事例の共有・議論（9名）※ハードルを上げすぎないでほしいという声もあり • 具体的なテーマに絞った議論（5名） • グローバル/日本国内の共通的な社会課題（4名） • データベースについて（4名） • インパクト指標・データを用いたアクション（企業と投資家の対話、共通認識形成、目指すインパクトから指標を選ぶ実務慣行、国際社会への説明方法） • 異なるデータ間の比較可能性の考慮 • 企業側へのインセンティブ
提供できるトピックス	<ul style="list-style-type: none"> • ESG評価機関 PIFの第三者保証、Impact Disclosure TFのデータベース※ • 金融機関 マテリアリティに基づく指標（整備中） • スタートアップ 障がい者調査 • 研究センター（IRIS+、IMM実態調査、管理会計における活用） • 保険会社 投資先のインパクト開示情報 • 企業 自社の取組 • 統合報告書コンサル 統合報告書におけるインパクト • 証券会社 分析結果 • データベンダー インパクト指標 • 大学研究者 スマートシティにおけるデータ連携基盤「都市OS」

※23年4月、J.P. Morgan DFIが欧米の機関投資家・銀行と連携して、企業やソブリン（investees）のインパクト開示を促進するために立ち上げ。2024年10月にガイダンス（“Impact Disclosure Guidance”）が公表された。（ガイダンスURL:[Other initiatives » ICMA](#)）

第1回データ指標分科会アンケート調査結果（2/2）



第1回分科会開催後に参加者対象にアンケートを実施し42件の回答を得た。アンケート結果概要は以下の通り。

項目	主な回答
成果物へのご意見	<ul style="list-style-type: none">• 活用に向けたメッセージ• 企業価値向上に資するインパクト指標についての議論を行うのであれば、それらの整っている上場企業、機関投資家の取組を対象• 金融庁のソーシャルプロジェクトのガイドライン*のような形で網羅的に一覧化• よい具体例の例示だけでも、十分参考になる• データ・指標そのものを見直す枠組みを備えた成果物を期待• 「実現可能性や方法論に入る前に、まずは望ましいデータベースの在り方・構想を議論」という方向性について共感• 社会課題ごとに取り上げるべき指標や価値換算の計算式などがエビデンスとともにあれば民間事業者、自治体等共に非常に有用• 理想が先行してしまうと、情報量が多くなり、企業側の負荷が不必要に増え、結果、裾野拡大に繋がらない可能性。実務方の意見も踏まえながらコンセプトペーパーを執筆• 社会課題の解決と望ましいデータ・指標の間のギャップを埋めるためにどう考えるべきか、どうアクセスするかなど、インパクト投資の実務につながる内容
ご意見	<ul style="list-style-type: none">• 対面開催したい• 資料を共有してほしい• 議論をオープンにしてほしい（DM会傍聴の設計に感謝）• メンバーも分科会中に質問できるようにしてほしい

※金融庁「付属書4 ソーシャルプロジェクトの社会的な効果に係る指標等の例」（URL：<https://www.fsa.go.jp/news/r4/singi/20220715/01.pdf>）

第1回DM会の振り返り（概要）

議論の方向性についての主なご意見

- 当分科会で目指す方向性について共通認識を醸成することが重要。
- データベースについては、「何を（What）」「どうやって（How）」に加え、「誰が使うか（Who）」という視点を考える必要あり。
- 代表的なものについては、課題、指標、インパクトパス、貨幣価値換算の算定式等を共通化・標準化して、企業の負担を減らしつつ、投資家による横比較を可能にできないか。
- インパクトは企業ごとの個別性もあり、共通の型に縛られる必要はないことを示すためにも、多様な事例の紹介があるとよい。

企業・投資家のデータ・指標に関するニーズについての主なご意見

企業・投資家双方

- 解決したい課題、指標、インパクトパス、貨幣価値換算の算定式等の共通化
- 個別事例の紹介（共通化できない部分の参考として）
- ナラティブ情報の分析・活用

企業

- 企業のパーパスや事業に紐づく指標
- 指標の測定・管理による企業行動の改善
- 指標・データ等に対する投資家からの（妥当な）評価
- インパクトパスやデータ作成負荷の軽減
- データを提供することへのインセンティブ付与

投資家

- 株価と関連がありそうな指標（投資家が使いたい指標）に関するデータの開示
- ナラティブ情報を含む理解のための企業との対話
- 企業間比較・時点間比較できるデータ
- 継続的なデータ収集・管理

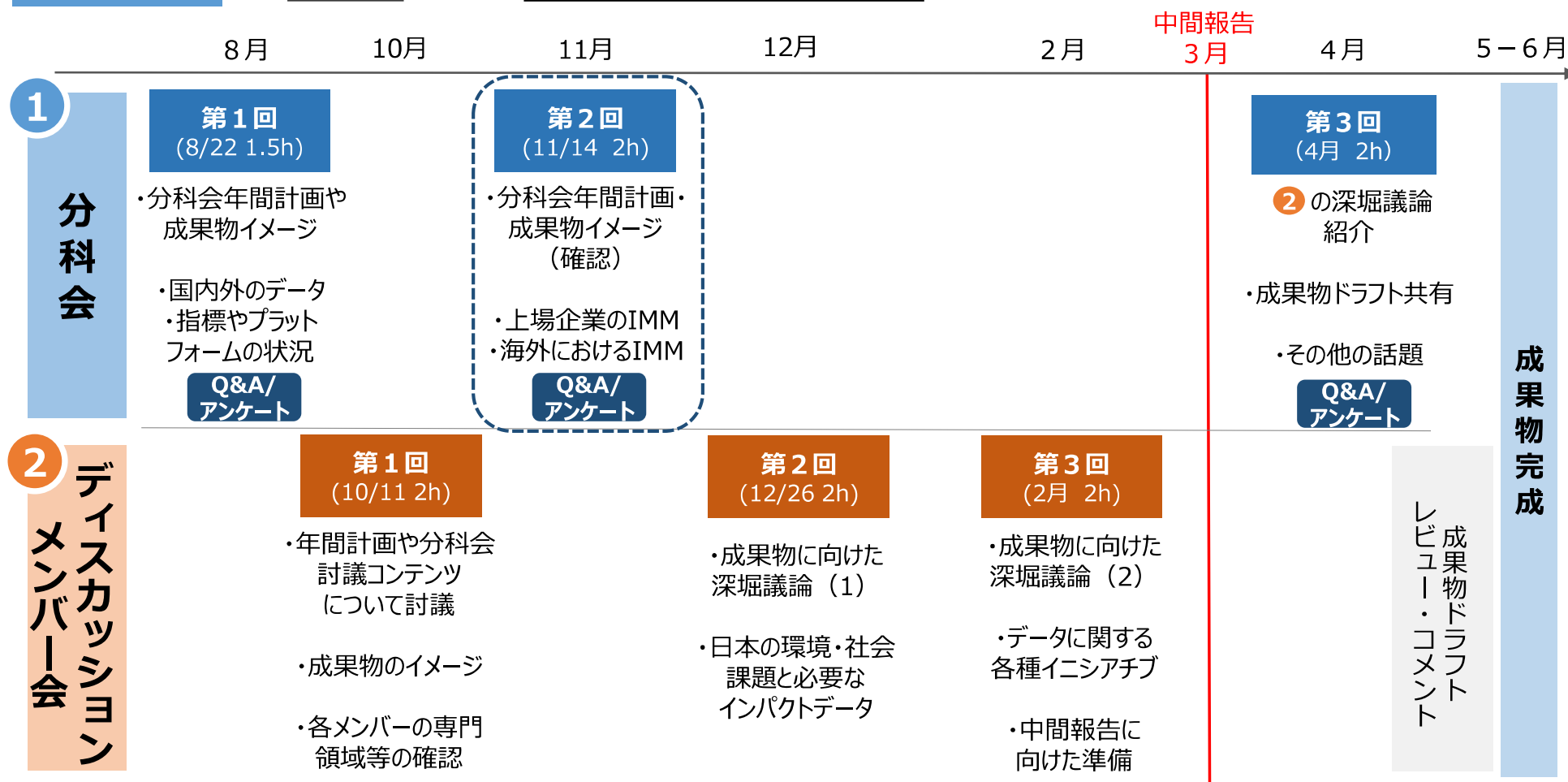
その他

- 先進国の課題を反映した指標等の海外発信
- 因果推論に使えるデータセットの作成

年間計画案

会議 の種類

- 1 分科会…**メンバー**が関係者からのプレゼンで理解を深め、**現状や課題と方向性の共有**をする会。事後アンケート等を通して意見や知見を発信。
- 2 ディスカッションメンバー会（DM会）…**ディスカッションメンバー**が現状や課題を深掘りし、**あるべき方向性の議論**をする会。**メンバーはオブザーバー参加可能**。



成果物

- インパクト・データベース・コンセプトペーパー（日英語）

1

インパクト・マネジメントの意義

2

データ・指標の整備状況

- ▶ インパクト投資に活用できる既存のデータベースの状況整理

3

日本のインパクト投資に必要なデータ・指標の整理

- ▶ 課題から見るデータ・指標の整理
（日本の地域固有の課題、日本の課題の種類、国際的にある程度共通の先進国特有課題）

4

望ましいデータベースの基本的な考え方

- ▶ ①～③を踏まえつつ、効果的なデータベースの活用のあり方や今後の課題等をまとめるイメージか

◆ 海外におけるIMMの調査進捗報告

- Nippon Life Global Investors Europe Plc 林様

◆ 上場企業のIMM（インパクト測定・マネジメント）の現状・革新・課題

- 第一三共株式会社 有馬様
- 大和ハウス工業株式会社 関様